

奥羽大学報



目次

年頭所感	2
早期体験見学学習(薬局見学)／ 第1回薬学部公開セミナー	5
奥羽大学文学会第47回発表会／附属病院	6
セクシュアル・ハラスメント防止委員会活動報告	8
私が薦める一冊の本／余滴	9
修養団創立100周年記念大会特別表彰	10
同窓会	11
同窓生のひろば	12
慶弔／人事	13

105

年 頭 所 感

学 長
清 水 秋 雄

明けましておめでとうございます。

新たなる年も、昨年の延長線上にあり、これを踏まえ、穏やかな新年を迎えられるよう願っています。

本学にとって昨年のエポックは、念願の薬学部開設、新薬学部学生の入学、授業の順調な展開、また平成18年度からの6年制移行に伴う申請の早々の認可であります。歯学部共々さらなる充実を期待しています。

社会においては、昨年の上半期から兆候が出始めた人口減少であります。その後の人口自然増（人口動態統計）の推移から、'04年の人口ピーク、'05年の人口減がほぼ確実視されました。これまでは、やや甘い将来推計（国立社会保障・人口問題研究所）を基に教育、労働、社会保障、財政等の諸問題が論じられていましたが、社会における語調も「自然減の衝撃」「予想以上の出生減」「予想より2年早い人口減」「打つ手ない少子化」等と深刻さが増しています。

一方、人口の構造変化に目を転じると、問題は進展する高齢化です。直に到来する第一次出生ブーム世代の離職が教育、医療福祉、産業、財政等の多くの分野に影響を及ぼします。現在も問題になっている高齢者医療福祉は、この世代が70歳代以降に病気を六つ、七つ持つ時期になると、高齢者増×疾患数が社会に重くのしかかってきます。

すべての人が社会の動向に関心を持たねばならない時代になりました。新しい年も連続スペクトル上にあることを認識し、教職員一同こつこつと努力を重ね、さらに右肩上がりの大学に発展するよう願っています。

歯学部長
新 田 敏 正

新年をお祝い申し上げます。

年頭にあたり、本年も世界が平和であること、そして本学が平穏で大きな発展の年になりますことを心より願っております。

本年は歯科医師臨床研修制度施行の最初の年となります。本学部もその研修の中核として附属病院にその場を提供します。これまでのように、学生を歯科医師に養成するばかりでなく、大学卒業直後の歯科医師を、さらに優れた臨床医にすることを社会に担保しなければならない義務を持つことになりました。これらの対応を前提に、これまで、教員のFD活動を強化するとともに講座の再編、コア・カリキュラムの導入、登院試験やOSCEの実施、5年生への早朝セミナーの実施と個別指導の強化を含め多くの教育改善を進めました。また同時に、臨床の先生方は、研修プログラム作りや実施のための厚生労働省の説明会への出席、学生の研修施設へのマッチング等の手続やその指導を行い、さらに研修協力施設の確保のために開業医を対象に県歯科医師会と共催で臨床研修指導医講習会等も開催しました。

本年は、今後の歯科医療の進展と社会の要望、変化を見据えた改善を進めるとともに、学生への学力向上を教授し得る教育体制の強化に努め、入学者全員を人間性豊かな歯科医師に養成すべく一層の努力をしなければならないと考えます。大学職員の方々の一丸となった協力をお願いし、私の年頭のご挨拶といたします。



文学部長
青木 義孝

明けましておめでとうございます。

いつものことですが、新年の挨拶を交わすと、私の場合、自分の置かれている状況は前年とほとんど何も変わっていないのに、ほんの一瞬ではありますが、何か明るい光が射したような気がします。

昨年は、国内だけを見ても、いろいろと不幸な事件がありました。家族の情につけ込んだ振り込め詐欺、人為的なミスによる悲惨な鉄道事故、罪もない小学生女児の誘拐殺害、ホテルやマンションの耐震強度偽装など、何とも物騒な世の中になってしまいました。今年は、私たち一人一人が、毎日の暮らしの中で、事態が更に悪化しないよう微力を尽くさなければならないと思っています。

一方、文学部の方は平成18年度が最後の年となり、春3月に現在の4年生が卒業すると、4月からは約50名の新4年生だけになります。人数が激減しても、学部としては、学則に定められている3・4年次生対象の授業料目を最低でも1つずつは開講し、平成19年3月に全員がめでたく卒業してくれることを期待しています。大部分の諸君はこの期待を満たしてくれるものと信じていますが、残念なことに、この所、自分の専門の勉強に集中できない人も目につきます。「意志ある所に道あり」と言いますが、逆に、意志なき所に道なしとも言えます。学生諸君には、残された時間に限りがあることを自覚し、自分を育てる努力を怠らないでほしいと願っています。

最後に、関係者の皆さまのご支援に感謝して、新年のご挨拶といたします。



薬学部長
永井 正博

新年おめでとうございます。皆様、良いお年をお迎えのことと思います。

薬学部は4年制教育として昨年4月スタートし、第1期生はあと3ヶ月後に1年間の勉学の成果を問われることとなります。また、本年4月は、わが国の薬学教育史上画期的な6年制教育に移行するときでもあります。

本学のクラブ、サークルの参加者が増え、活動は活発化し、学生は若さを発揮しています。まことに頼もしいことです。1、2月の厳しい学年末試験を経て、本学部の1期生が2年生になります。1期生の受ける教育は6年制教育での実質的内容とさして変わるわけではありません。将来の本学部の社会的評価を決める1期生に、入学時に胸に秘めた初心をもう一度思い起こし、今後とも学業と課外活動の両立に精一杯の努力を期待します。

近年の医療技術の高度化、医薬分業の進展等に伴う医薬品の安全使用や薬害の防止などの社会的要請に応えるため、教養教育並びに医療薬学を中心とした専門教育及び実務実習の充実の必要性から、臨床に係る実践的な能力を培うことを主な目的とする薬学教育の修業年限が6年に延長されました。この修業年限延長の目的は、本学部の教育理念「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師の養成」に合致するものです。今年4月はそのスタートを切る年になりますが、具体的教育内容を決めるカリキュラム編成と実務実習の円滑な実施に向けた準備が、本学部にとって本年を含め今後最大の努力目標になります。



病院長
天 野 義 和

新年おめでとうございます。

昨年はお陰様で病院の教職員の地道な努力の成果が徐々に現われ、患者数も前年よりも増加し紹介率も30%を越えました。

4月からは卒直後の臨床研修が必修となり、歯科医師臨床研修方式も単独型の他に複合型の歯科医師臨床研修施設群方式（管理型と協力型）が可能となり、募集定員を140名（単独型110名、複合型30名）とすることが承認されました。また、学生の臨床実習参加型を更に充実させるために6年生は前期まで臨床実習を行うことになり、5年生の臨床実習に加えて研修医を考えると多量の患者を必要とします。

大学病院は高度な技術と先進医療を行う事は当然のことですが、全ての患者がこれを楽しんでいるとは思いません。普通の治療であっても親切丁寧で納得のいく治療、即ち、安心して信頼出来る治療を望んでいると思います。これらを満たすことが患者を増やすことになると思います。そのためには職員の患者に対する対応と歯科医師の歯科医師であるという十分な自覚が必要で、その基本の心構えは規則を周知徹底して守り、服装、髪、話し方、態度に留意することが最低の条件です。

当病院は地域社会の皆さんのホームドクター的存在となるように色々な意見に耳を傾け、教職員がアイデアを出し合って、よりよい病院にするために一致団結・協力して邁進することおよび大学病院としての使命が更に果たせることを願っています。

最後になりましたが今年も皆さんの良い年になりますようお祈りします。



図書館長
安 藤 勝

あけましておめでとうございます。

皆さんお揃いで新たな年をお迎えのことと思います。毎年のことではありますが、新年を迎えると、清新な気分を満たされます。「さあ、今年も行くぞ」という希望がわいてきます。そうです。この新たな希望をつくりあげていくために「新年」はあるのです。皆様のそれぞれの夢がかなえられますよう、充実した一年であることをお祈りしたいと思います。

本学図書館は、薬学部新設に伴い、大きく様変わりしました。書庫の拡張と書架の増連をはじめとして、閲覧席の増設、AVブース設置、利用者用パソコン増設等を図り、図書・雑誌など蔵書構築の面でも予定の受け入れが済み、学部新設のための事業はひとまず完了しました。これからは、図書館利用面での整備に力を注ぐ必要があります。特に遅れている面として各種データベースの導入があります。歯学・薬学分野を専門とする本学図書館にとっては、必須の「道具」といえましよう。と同時に、一次資料の更なる充実が望まれます。最近、論文や研究資料の多くが電子媒体で提供されてきておりますので、それらの選定や運用面での検討が必要となります。従来型の図書館をベースとして、更なる変革が強いられてきているといってもよいでしょう。

言うまでもなく図書館は、内外の資料が活用されてこそ、存在価値があります。学生の図書館利用促進についても検討を加えなければなりません。また、生涯学習との関連から図書館の役割を考えることも必要です。

さまざまな課題を抱えている図書館ではありますが、各位のご理解とご協力をお願いし、年頭のごあいさつといたします。

早期体験見学学習（薬局見学）

1年生の早期体験見学学習の一環として、調剤薬局の見学を希望参加として募集したところ63名の学生が参加した。今回の見学学習に当たっては、福島県薬剤師会郡山支部長橋本直也先生と協議し、具体的な見学先、日程を山田善之進先生と詰めることにした。最終的に決定した日時は、本学の都合により11月14日(月)、18日(金)、21日(月)、25日(金)、見学場所は郡山支部長に一任することにした。

見学学習に先立ち、見学希望学生全員に対し、注意事項を連絡する。髪、化粧を控えめに、ジーパン着用を禁止した。特に患者さんについて知り得た情報の守秘義務を徹底させた。

見学学習は一施設あたり、学生3名～5名に引率者1名を同行させ、往復は本学のバスを利用した。14日(月)に男子学生が気分を悪くしたために、引率していた藤井先生の判断で見学の途中で大学に戻るアクシデントがあったが、無事全日程を終了した。見学終了後、参加学生とディスカッションを行ったところ、薬剤師になるための勉強に対するモチベーションが考えた以上に高まっていたことに驚いた。なお、学生の意見の一部を紹介する。

- 漠然と調剤薬局の仕事を考えていたが、患者さんを思いやる気持ち、気配りに感動した。
- 患者さんとのコミュニケーションの取り方がすばらしいと思った。
- 基礎薬学をしっかりとし身につける必要性を実感した。
- 見学時間が短かった。
- 友達と一緒にあったので、気持ちが楽だった。一人だとどれだけ緊張したか分からない。

(東海林 徹)



第1回薬学部公開セミナー

平成17年4月に福島県初の薬学部として奥羽大学薬学部が発足し、学部教員が郡山市のみならず、広く内外に薬学に関する情報を発信する試みの一環として、第1回奥羽大学薬学部公開セミナーが11月30日(水) 5号館513教室で開催された。

今回の講師は、廣井邦雄教授が「有機硫黄化学と有機金属化学に基づく不斉合成」の演題名で、薬理活性を持つキラル体の選択的合成法に関する最近の知見を、また、清水啓助手が「細胞内における酸化タンパク質分解酵素oxidized protein hydrolase (OPH) の機能と動態に関する研究」の演題名で、酸化ストレスに対する防御機構および細胞の延命に関するタンパク質分解酵素の役割について講演を行った。

会場には学内外より約30名の参加者がつめかけ、熱心に講演に聞き入り、活発な討論が繰り広げられた。

本セミナーは今後月1回の割合で、学内外より講師を招き、講演を行う予定である。

(小池 勇一)



奥羽大学文学会第47回発表会

去る11月24日(木)16:40から17:30まで本年度第4回目の文学会発表会が5号館537教室で行われた。発表者は青木義孝教授(専門分野:英語・20世紀中葉のイギリス小説)で、演題は「アイロニーの系譜」である。

まず、アイロニーを「(人間をあざ笑うかのように)予想や期待と正反対の結果が生まれること」と定義し、このような構造をもつ文学作品として、『オイディプス王』(前5世紀、ソポクレス)、『リア王』(1606、シェイクスピア)、『動物農場』(1945、ジョージ・オーウェル)などを挙げ、それぞれの概略を解説する。

次にアイロニーを生む人間的要因として、人間が全知でないこと、錯覚や誤解に陥りやすいことを指摘し、これが激情、願望思考、油断、過信などで増幅されることを示す。最後に、現実世界でこれらに対処する手段として、学問の勤め、クリティカルシンキング、失敗の事例研究、フェイルセーフ機構などを挙げる。

(早坂 高則)

附属病院

平成17年度第2回医療安全推進研修会

歯学部附属病院では、平成17年12月7日(水)に第2回医療安全推進研修会を開催しました。本研修会は、厚生労働省令の医療法施行規則に従う職員研修ですが、教職員、大学院生、研修医の207名が受講しました。今回は、大阪大学より丹羽 均教授を招き、「院内救急医療体制の構築」について講演していただきました。大阪大学では、某大学で発生した歯科治療中の死亡事故をきっかけに、救急医療体制の整備に着手し、ここ数年の間に体制を整えたとのこと。緊急時の対応は本学とほぼ同様の手順でしたが、一次救命処置(BLS)の講習会は4年目に入り、ほとんどの職員が複数回の受講を終えたとのこと。緊急時の対応マニュアルを作成し、全職員に通知しているが、マニュアルの知識だけでなく、マニュアルに沿って行動できる体制を整えることが重要であることを強調されました。本学はマニュアルの配布はもとより、今年度からは全職員に受講を義務付けたBLS講習会を開催し、知識と技能の向上に努めています。同時に、救急医療や医療安全管理の体制を整備して緊急時に備えています。

附属病院では、これからも安全で信頼性の高い歯科医療を、そして患者さんが安心して受診できる歯科医療環境を、医療安全推進委員会を中心に構築してまいります。

(清野 和夫)



平成17年度 奥羽大学歯学部附属病院 研修セミナー特別講演会

平成17年11月24日(木)に本学歯学部附属病院5F臨床講義室において、社団法人福島県歯科医師会専務理事安齋勲先生を講師にお迎えして標記講演会が開催されました。

昨年に引き続き「歯科医療の現状と諸課題Ⅳ」という演題で、安齋先生本来の調子で90頁にわたる資料をもとに立て板に水のごとくに話がありました。職員が熱心に耳を傾ける中、内容は多岐にわたり、中でも「診療報酬」に関して医科と歯科の格差が生じた背景の説明では、歯科の特殊性について力説され圧巻でした。国民皆保険制度を守る国民集会のスローガンについての説明もされ、さらに政府の規制改革・民間開放会議の報告の中で医療機関の情報開示、保険者機能の強化、中医協の見直し、混合診療問題の継続的な監視などが取り上げられていることも紹介されました。また医療機関と保険者の直接契約における契約条件の緩和については、フリーアクセスの阻害になりうることの危険性、医療保険制度改革と国保制度の課題についても言及されていました。

最後に一般的な苦情等について触れられ、インフォームドコンセントの不足、技術不足、金銭問題が大きな3要素であることが述べられました。我々医療人は、知識、技術とともにさらに重要なこととして、社会性が求められていることを強調されておりました。

(高橋 和裕)

平成17年度 第2回歯科医師臨床研修指導医講習会

平成17年5月に引き続き第2回目の講習会が平成17年11月19日(土)、20日(日)の両日に清江山倶楽部および無垢苑にて開催された。

受講者は、北は山形県から南が兵庫県・鳥取県までの先生方に本学教員が加わり37名であった。

学外タスクフォースは、日本歯科大学附属病院長・住友雅人教授、福島県立医科大学・川崎健治助教授をお招きし、その他に本学関係者12名がタスクフォースなどの運営に当たった。

講習会は、19日(土)午前10時に開講式、引き続きセッションⅠの「ワークショップとは」から始まり、セッションの間に厚生労働省医政局歯科保健課・神光一郎歯科医師臨床研修専門官による「臨床研修必修化に向けて」および本学清野和夫教授による「医療安全と感染予防」の2講演が組み込まれ、1日最終のセッションⅣの「総合討論会」が午後10時に終了した。

翌20日(日)は、午前9時から午後5時の閉講式まで分刻みのスケジュールで無事終了した。

(齋藤 高弘)



セクシュアル・ハラスメント

防止委員会活動報告

【セクシュアル・ハラスメント防止委員会の発足】

本学セクシュアル・ハラスメント防止委員会が平成17年7月1日(金)より発足しました。この委員会は本学に所属する学生のみなさんがセクシュアル・ハラスメントの被害を受けることなく、充実した学生生活を送れるよう支援することを目的として設立されました。委員会では教職員から学生に対するセクシュアル・ハラスメントにとどまらず、学内外のあらゆる場面において、本学に所属する学生・教職員が関与するすべてのセクシュアル・ハラスメントを対象として扱います。

【セクシュアル・ハラスメントとは】

どのような行為がセクシュアル・ハラスメントとされるのでしょうか。本学のセクシュアル・ハラスメントガイドラインでは、相手の望まない性的な言動または性差別的な言動であり、次のいずれかに該当する場合であるとしています。ひとつは、対価型セクシュアル・ハラスメントといわれるもので、教育・研究・診療などの場において、指導・成績評価・昇進・人事考課などへの見返りとして、相手の意に反する性的関係を要求したり、従わなかった場合に不利な取扱いを行ったりする行為があげられます。もうひとつは、環境型セクシュアル・ハラスメントといわれるもので、これみよがしに裸の写真を掲示する、性的な話題をいやがる女性の前で話す、女性の容姿を話題にするなど、女性の就学・就業環境を著しく不快なものとする行為があげられます。この他、しつこくデートや食事に誘う、髪・肩・胸・腰など身体に触る、洗面所・更衣室などの前で身体の一部をじっと見つめる、性的な電話・メールを送る、性的にふしだらなどと悪質な噂を流す、お酒の酌やデュエットを強要するなど、女性が性的に不快に思う行為が環境型セクシュアル・ハラスメントに該当します。また、お茶くみ・後片付けを女性の仕事とする、重要な仕事を女性

にまかせない、女は早く結婚したほうが良いと話す、女のくせに(男のくせに)と発言するなど、性別役割分担意識や性的な差別意識に基づいて行われるジェンダー・ハラスメントも相談の対象とします。

【セクシュアル・ハラスメントの被害に遭ったら】

委員会の委員は相談員も兼ねておりますが、歯学部・文学部・薬学部の教員、事務・附属病院の職員など学内の幅広い部署から選出され、男女同数の委員で構成されております。この中には、臨床心理士、医師、看護師など専門性の高い職員も含まれ、相談のあらゆる場面に対応できるような体制をとっております。さらに、これらの委員はセクシュアル・ハラスメントに関する研修を受けており、被害を受けたみなさんからの相談に誠意をもって対応いたします。

セクシュアル・ハラスメント被害のない明るいキャンパスをつくるため、学生・教職員のみなさんのご協力をお願いいたします。もし、何らかのセクシュアル・ハラスメント被害を受けた時は、セクシュアル・ハラスメント防止委員会の委員へご相談下さい。

(久野 弘武)

●相談受付

○セクシュアル・ハラスメント防止委員(50音順)

氏名	所属	内線	所属地
阿部 賢志	薬学部	7416	5号館4階
安藤 好恵	文学部	5332	1号館3階
黒田 よし子	図書館	5114	図書館
白井 やよい	歯学部	2319	附属病院3階
白土 孝	学事部	8142	記念講堂1階
遊佐 淳子	歯学部	3421	基礎医学研究棟4階
高田 芳伸	薬学部	7418	5号館4階
高橋 朋子	薬学部	7514	5号館5階
長谷川 淳子	看護部	2451	附属病院4階
久野 弘武	歯学部	2527	附属病院5階
増子 弘信	総務部	8112	記念講堂1階
松原 宏明	文学部	5349	1号館3階
南 鉄男	文学部	5348	1号館3階

※委員に直接連絡していただいて結構です。 [2005年12月現在]

○TEL 024-932-8931(代) ※各委員の内線へおかけ下さい。

○カウンセリング室(1号館3階)

TEL 024-932-9123(直通)

○事務局 総務部総務課 窓口担当:佐藤安宏(内線8116)

TEL・FAX 024-991-7816

E-mail ohu-sekudara@juno.ocn.ne.jp

私が薦める一冊の本

『「化学物質」恵みと誤解

ー口紅・ガムからバイアグラまでー

(John Emsley著、渡辺 正訳、丸善)

ここ四半世紀ほど、多くの「化学物質」が危険なものとして騒がれ、多額の研究費が予算化され、調査・研究が行われ、果ては新しい法律まで出来てしまうようなことが繰り返されてきました。しかし、「これらの本質的(安全性における)な顛末はいったいどうだったのでしょうか?」という質問に答えられる人はほとんどいないでしょう。実は、過去に多くの有用な「化学物質」が濡れ衣を着せられその無実が証明されていますが、ほとんどの人達は濡れ衣の部分しか知らないのが現実です。

「化学物質」に対して、マスコミは“危険だ!”という記事は積極的(大袈裟)に取扱うものの、その逆に“誤解(安全)だった…”という記事はニュース性に乏しく、扱おうとはせず、誤解は解けないままになってしまう。このために、化学製品無しには生活できないにもかかわらず、「化学物質」=“危険(毒性があって環境を汚すもの)”という風潮(化学恐怖症)が出来上がってしまったように思われます。

原著者と訳者はこれまでも「化学物質」の危険性・安全性に関する何冊かの本を出し、冷静な評価の必要性を訴えてきました。本書においては、「化学物質」が人間生活のいたるところー特に美容や健康面ーで取扱われ、どんなに役立っているかということ及びそれらが受けた誤解が平易に書かれています。さらには、前述のような記事に対する冷静な判断方法も解説されています。

本書を読んで、「化学物質」の大きな恵みと危険性に対する誤解を理解すれば、悪者扱いしていた化学に対する考え方が変化する(化学を扱う者としてはして欲しい)と思います。化学恐怖症の有効な治療薬に成りうるそんな一冊です。

本文中、著者のこだわりを尊重(同意)して「化学物質」と「」を付けてありますが、この意味をお知りになりたい方は、本書を読んでみて下さい。また、“天然物由来だから安心!”と言う人がいますが、“天然物質も化学物質であることをお忘れなく…”。

(岩木 和夫)

余 滴

アガリクスは今?!

アガリクス(写真)の市場規模は300億円を超え29社以上が参入する。逮捕劇以降、逆風が絶えない。10月26日(水)付毎日新聞夕刊には「アガリクスに心筋症の恐れ」とがん治療学会での取材記事。よく見るとレンチナン(後述)注射でマウスに心筋障害が出たというものだが、アガリクスの実験はしていない。3段論法の推測記事だ。2002年の厚生労働省研究班の調査によると、がん患者の45%が代替・補完医療を経験し、その90%が健康食品で、うち60%がアガリクスを利用していた。しかし、その効果については、24%があったものの、70%近くは分からないと回答。有効性を評価して欲しいとの要望は強い。PubMedで学術論文を検索すると、ヒトを対象にしたin vivo研究が1報ある。がん患者でQOLを改善させたという。一般に茸の作用が注目され始めたのは、1968年国立がんセンターの池川哲郎らによる茸類の熱水抽出液の抗がんスクリーニング結果が発表されたことに端を発する。再評価後の今でもレンチナン(椎茸)、シゾフィラン(スエヒロ茸)、クレスチン(カワラ茸)は、単独で使用されることはないが医薬品である。またメシマコブは日本では“いわゆる健康食品”であるが、韓国ではれっきとした医薬品である。これらは β -1,3グルカン、アガリクスは β -1,6グルカンの主鎖を持ち、タンパク質やGABA、エルゴステロールに富む。内閣府食品安全委員会の某委員は、万人に効く健康食品はないと

言い切る。一方、薬物代謝酵素CYPsに対して影響を及ぼさず、抗がん剤との併用が可能でQOLを改善することは評価に値するとの声も多い。薬事法、健康増進法、食品衛生法の縛りから予防効果さえ謳えない。米NCIはRapid Programとして研究費を投じている。消費者としては冷静に情報を見極め、自分に合った“品質の良いもの”と上手く付き合いたい。薬剤師の役割は大きい！

(上野 明道)



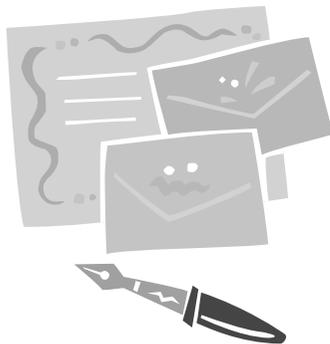
修養団創立100周年記念大会特別表彰

去る平成17年11月13日(日)、明治神宮会館において天皇・皇后両陛下ご臨席の下、財務部職員鈴木幸之助さんが特別表彰の荣誉に浴されました。本修養団は、文科省所管の社会教育団体で1906年、本県出身者(山都町)である蓮沼門三氏が中心となって創立されたボランティア団体であります。「愛なき人生は暗黒なり、汗なき社会は墮落なり」を信条とし、子どもたちの「生きる力」を育み「愛と汗」の活動を100年にわたって展開してきた団体です。

鈴木さんは、高校生の頃よりこの団体に加入し、今日まで一貫してボランティア活動に携わられてきました。



その成果が認められ、今回の記念事業に際して全国247名のうちの一人として選ばれたものであります。鈴木さんの今後益々のご活躍が期待されます。



同窓会

歯学部同窓会

千葉県は東京都の東に隣接し、JR・各私鉄交通網の発達により通勤圏が広がりベッドタウン化が進み、千葉都民といわれる由縁です。2004年の統計によりますと人口約604万人、歯科診療所3,033件、歯科医師4,350人となっております。通勤圏での人口・診療所数を調べたところ、JR総武線沿線各市の人口・診療所数（概数）、浦安市（15万人・40件）、市川市（45万人・200件）、船橋市（57万人・280件）、鎌ヶ谷市（10万人・20件）、習志野市（16万人・40件）、八千代市（18万人・70件）、千葉市（90万人・400件）、印旛郡市（佐倉市17.5万人、成田市9.8万人、四街道市8.5万人、八街市7.6万人、印西市6.6万人、白井市5.3万人・200件）、JR常磐線沿線松戸市（47万人・170件）、柏市（38万人・140件）、我孫子市（13万人・30件）、流山市（15万人・40件）、野田市（15万人・45件）、県歯登録会員に加えて歯科医師会未入会の先生方が約1割おられる状況です。通勤圏で県の約6割を占めております。また本県には、東京歯科大、日本大学松戸歯学部と2校あり益々増加に拍車がかかるものと予想されます。

同窓会活動としまして年1回総会・講演会を開催、講師に母校の先生をお願いしております。対外的には、九州歯科大、北海道医療大、岩手医科大、東北大、明海大、鶴見大、松本歯科大、神奈川歯科大、愛知学院大、奥羽大、11校参加の“平成会”に所属、懇親会、ゴルフコンペ、情報交換を行っております。また東京支部より納涼会、ゴルフのお誘いを受け参加交流を図っております。現在本県には約100名の同窓生がおられますが、同窓会への参加者が少ないのが悩みの種です。同窓から県歯、郡歯へ多数の先生が役員として活躍しておられ、色々な情報がありますのでどうぞ気楽に同窓会へ参加して下さる事を望む次第です。

（千葉県支部長 遠田 毅）

文学部同窓会

謹賀新年 本年もよろしくご願い申し上げます。

去る12月18日(日)、郡山駅前ビル・ビッグアイ「特別会議室」において、平成17年度文学部同窓会定期総会が開催されました。吹雪の中、遠くは岩手や東京から役員・幹事が集まり、同窓会組織運営に関する協議を2時間にわたりいたしました。詳細に関しては、ホームページにて掲載を予定しておりますので、そちらをご覧ください。[http://www.ohu-1\(エル\).net](http://www.ohu-1(エル).net)

今回協議のひとつに「ホームページのさらなる活用」が挙げられ、既存サイトの活性化を図り、情報発信と収集の効果を高めるための案を出しました。今後予算の減少に伴い、文学部同窓会の存続に関して、今までの組織運営から視点を変えなければならず、その新しい方法に転換する時期が迫ってきたためでもあります。この件に関しましても、随時ホームページの方でご紹介していけたらと考えております。

今後ともより一層のご理解とご支援をお願いします。

〈会計からのお知らせ〉

本年度卒業された同窓会の皆さんで、まだ会費の納入がされていない方がおります。近日中に「再度会費納入のお願い」をお送りいたしますので、ご入金の方よろしくご願い申し上げます。

（会長 松尾 毅）

同窓生のひろば



小林 収
(歯学部12期生)

寒さ厳しい今日この頃ですが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

私は、平成元年、12期生として母校を卒業させて頂きました。親元を離れての初めての一人暮らし、東北地方の寒さ、サークル活動、試験勉強など、今になっても懐かしく思い出されます。

卒業後、地元山梨県で歯科医院に5年ほど勤務し、その後、県の最北端に位置する北杜市に開業致しました。北に赤岳を主峰とする八ヶ岳の山々がそびえ、東には金峰山を中心とする秩父連峰が、西には南アルプスの峰々が連なり、はるか南には端正な富士の姿が浮かぶ美しい自然に包まれた地域です。春夏秋冬、折々の表情の変化を楽しみながら、早いもので10数年の歳月が経ちました。開業当初は、知らない事ばかりでしたが、なんとかこちらでも同業者の知人や地元の友人もでき、現在に至っております。泣いて治療を手こずらせた子ども達が、中学生や高校生になって来院すると、時の流れを実感します。そしてこれからも、歯科医師としての初心を忘れず患者様中心の診療を続けていきたいと思っています。また、歯科診療の技術や材料の進歩、保険診療の改革等、歯科界をとりまく環境も急速に変化してきています。まだまだ勉強することは山積みですが、自分のビジョンを持って努力していきたいと思っています。

最後になりましたが、同窓会の皆様方のご健勝と、ご多幸をお祈りいたします。



えびさわ
鮎澤 英子 (旧姓鈴木)
(仏文科5期生)

本学を卒業し、早いもので9年が経ちました。たまに会う友人たちは、それぞれ結婚をしたり、仕事に頑張っています。私も卒業後、(株)過足青果に結婚するまでの4年間勤めました。仕事は、市場ということもあり、男性ばかりの職場で朝早い出勤だったり辛いこともありましたが、お客様との触れ合いはとても楽しく、忙しくも充実していました。社会に出て厳しさを学びました。私は現在専業主婦として、夫と子ども2人と生活しています。

今、奥羽大学のすぐ側に住んでいるので、よく前を通ります。その度に、学生時代のことを思い出します。特に、語学研修で行ったニューカレドニアのことは、最高の思い出です。海外の生活は、言葉がなかなか通じなかったり大変でした。その中で私が得たことは、“何にでもチャレンジすること”でした。私は英語とフランス語の教員免許を取得したものの、いろいろ学んでいくうちにこれからは、幼児教育が大切なのではないかと思い、就職後もその思いが変わらず、結婚と同時に、通信教育を受けるために他の大学へ編入し、幼児教育を学びました。また、弾いたこともないピアノにも挑戦し、去年教育実習も終え、今年3月には無事幼稚園教諭の免許を取得することができました。これも海外で学んだチャレンジ精神のおかげだと思っています。

そして学んだことが今、自分の子育て、育児サークルの運営、子育てボランティアに生かされていることを実感しています。今また新たに保育士を目指し、国家試験に挑戦中です。まずは自分の子育てを楽しみながら頑張っていこうと思います。

慶 弔

<訃 報>

慎んでお悔やみ申し上げます。

●薬学部 生物・衛生化学助教授 堀江 均
実父 堀江 文八 殿 (77歳) 12月30日

人 事

<採 用>

遠藤 豪 総 務 部 事 務 職 員 12月1日付
柳田 孝治 病院事務部 “ ”

<異 動>

新 旧
相馬 明子 学事部(薬学部担当) 総 務 部 12月1日付

<退 職>

安齋 愛美 附 属 病 院 歯 科 衛 生 士 12月31日付

<委員会からのお知らせ>

本学報は、同窓生と在学生の保護者あてに送付しております。転居・住居表示の変更の場合は下記までご連絡くださるようお願いいたします。その際、お手数でも宛名シールの番号をご記入いただければ幸いです。なお、皆様からのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

連絡先/奥羽大学 総務部 広報担当

奥羽大学報105号 (通算No.230) 平成18年1月11日発行

発 行 奥 羽 大 学
学 報 編 集 委 員 会
委 員 長 清 水 秋 雄

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp